

このリリースに関する連絡先:

武内 信政
広報担当マネージャー
03 6271 9408
nobumasa.takeuchi@bakermckenzie.com

プレスリリース

ベーカー&マッケンジー、日清食品ホールディングスによる日清味の素
アリメントス社の株式取得において法的アドバイスを提供

取得価額は **325 億円**、味の素が保有する全持分の買収案件

【東京発 2015 年 9 月 9 日】

ベーカー&マッケンジー法律事務所（外国法共同事業）（所在地：東京都港区、代表パートナー：ジェレミー・ピッツ）は、日清食品ホールディングス株式会社（以下、「日清食品」）が即席麺製造・販売会社の NISSIN-AJINOMOTO ALIMENTOS LTDA.（以下、「日清味の素アリメントス」）の味の素株式会社（以下、「味の素」）持分 50%を取得する案件において、日清食品に法的アドバイスを提供いたしました。これにより日清食品の同社持分は 100%となり、連結子会社となる見込みです。本件に関わる買収金額は 325 億円と公表されています。

ベーカー&マッケンジーでは、東京事務所の近藤浩をリード・パートナーとし、パートナーの茨城敏夫、アソシエイトの勝山正雄及び税務チームから小林真一税理士、ブラジル サン・パウロ事務所からは Alberto Mori が本案件に携わりました。

ベーカー&マッケンジー東京事務所のコーポレート M&A グループのリーダーであり、本案件を主導した近藤浩は、「日清食品の重要な取引に関与できた事を大変光栄に思います。東京チームとブラジルのサン・パウロチームが共同で取り組み、経験豊富な弁護士を配置したことにより、日清食品に迅速かつ的確な法的サポートを提供する事が可能となりました。ブラジル市場における一層のシェア拡大および収益拡大への期待に応え、本案件の成功に貢献できたことはこの上ない喜びです」と述べています。

- 以上 -

■本件における責任者



近藤 浩

コーポレート M&A グループ 代表パートナー

東京事務所のコーポレート M&A プラクティス・グループのリーダーであり、M&A、プライベートエクイティ、企業法務、労働法を専門とする。飲料食品等の日用品、製薬、通信、保険業界等における日本の大型 M&A 案件で重要な役割を担う。また、MBO や LBO を主とするプライベートエクイティ投資、企業再生、証券取引規制、独占禁止法、労使紛争処理の分野にも精通。

■ベーカー&マッケンジーについて

ベーカー&マッケンジーは、47 か国に 77 の事務所に 12,000 名以上を擁する国際法律事務所です。1949 年の設立以来、各国の言語およびビジネス環境に対する深い理解に基づく高品質のサービスを提供する法律事務所として知られています。2015 年 6 月 30 日決算期における収入は、24 億 3,000 万米ドルとなりました。ファームのエグゼクティブ・コミッティのチェアマンは、エデュアルド・レイテイが務めています。

www.bakermckenzie.com

ベーカー&マッケンジー法律事務所（外国法共同事業）は、ベーカー&マッケンジーの東京事務所として 1972 年に開設されました。日本法に関する卓越した知識、経験とともに、グローバル・ビジネスに関する実績とノウハウを兼ね備えた外国法共同事業を営む法律事務所として、日本最大級の規模を有しています。当事務所は、ベーカー&マッケンジーのメンバーファームとして、国内外の金融法務、M&A、企業法務、独占禁止法、大型プロジェクト、知的財産、国際税務、訴訟・仲裁、労務、環境、製薬、不動産関連等について、総合的かつ専門的な法務サービスを提供しています。

www.bakermckenzie.co.jp



ベーカー&マッケンジー法律事務所（外国法共同事業）は、各国に所在するオフィスをメンバーファームとするスイス法上の組織体であるベーカー&マッケンジー インターナショナルのメンバーファームです。専門的知識に基づくサービスを提供する組織体において共通して使用されている用語例に従い、「パートナー」とは、法律事務所におけるパートナーである者またはこれと同等の者を指します。同じく、「オフィス」とは、かかるいずれかの法律事務所のオフィスを指します。